

第 3 8 回

宮崎整形外科懇話会

プ ロ グ ラ ム

日 時：平成 1 1 年 7 月 3 日（土） 1 3 : 3 0 開会

会 場：宮崎観光ホテル 東館 2 階『日向の間』
（宮崎市松山 1-1-1 TEL 0985-27-1212）

会 長：田 島 直 也
宮崎医科大学整形外科学教室

共 催 宮崎整形外科懇話会
住友製薬株式会社

—— 参加者へのお知らせ ——

1. 参加費；会場受付で申し受けます。 1000円
2. 年会費；未納の方は受付で納入お願いします。 5000円
(受付13:00 より)

—— 演者へのお知らせ ——

1. □演時間；一般演題は1題5分、討論3分程度、
主題は、1題6分、討論3分程度とします。
2. □演用スライド；単写とします。演者は講演30分前までにスラ
ドをスライド受付に御提出下さい。

—— 世話人会のお知らせ ——

13:00 ~ 13:20 初雁の間 (東館2階)

—— お知らせ ——

研究会終了後、同会場にて、
『宮崎医科大学整形外科学教室三水会 100回記念講演会』
が開催されます。

—— お問い合わせ先 ——

事務局 宮崎医科大学整形外科学教室内
宮崎整形外科懇話会事務局
担当 黒木龍二

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原 5200
TEL 0985-85-0986 (直通) FAX 0985-84-2931

13:30 開 会

13:30 一般演題

座長 谷脇 功一

1. 長期透析患者に生じたアミロイド骨嚢腫に合併した大腿骨頸部内側病的骨折の一例
県立日南病院整形外科 石田 康行、他
2. 下腿骨骨折受傷後に生じた肺塞栓症の1例
県立延岡病院整形外科 池尻 洋史、他
3. 人工関節置換術後に仙骨のinsufficiency fractureを生じた慢性関節リウマチ患者の2症例
潤和会記念病院整形外科 江夏 剛、他
4. 陳旧性のアキレス腱断裂に対するLeeds-Keio人工靭帯使用の経験
国立都城病院整形外科 前田 和徳、他
5. 脳性麻痺者の歩容の検討－種々の歩行分析装置による術前後の評価－
県立こども療育センター 海田 博志、他
6. 超音波骨量測定における測定部位について(第2報)
平部整形外科医院 平部 久彬、他

14:30 主題：肩関節周辺外傷

座長 神園 豊

7. Ace humeral nail system を用いて治療を行った上腕骨近位端骨折の小経験
宮崎社会保険病院整形外科 矢野 浩明、他
8. 上腕骨外科頸骨折に対するcannulated Herbert Bone Screw の使用経験
国立療養所霧島病院 蔵重 芳文、他
9. 肩鎖関節脱臼に対するCadenat 変法の治療経験
永吉整形外科 永吉 洋次、他
10. 反復性肩関節脱臼に対するBristow 変法の術後成績
宮崎医科大学整形外科 谷島 満、他

15:10 閉 会

開 会 (13:30)

一般演題

座長 谷脇 功一 (県立延岡病院)

1. 長期透析患者に生じたアミロイド骨嚢腫に合併した大腿骨頸部内側病的骨折の一例

県立日南病院整形外科

○石田 康行 長鶴 義隆
大田 博人 本 部 浩一

【目的】長期人工透析患者には様々な整形外科的合併症を生じる。今回我々は、長期透析患者に生じた大腿骨頸部アミロイド骨嚢腫に病的骨折を起こした症例を経験したので報告する。

【症例】76歳男性。昭和59年2月より週3回人工透析を受けている。平、11年4月4日、転倒し左股部痛出現、症状軽快しないため同年4月22日当科外来受診した。一本杖歩行にて来院し、歩行時痛を認めたが安静時痛はなかった。X-Pにて左大腿骨頸部の大半を占める骨嚢腫を認め、同部に骨折線を認めた。3年前に両側手根管開放術を施行していた。大腿骨頸部内側病的骨折と診断し、同年4月30日人工骨頭置換術 (Austin-Moore with bone cement) を施行した。

【結果】術後4週にてT字杖歩行にて退院となった。術後の病理組織検査でアミロイドの沈着を認めた。

2. 下腿骨骨折受傷後に生じた肺塞栓症の1例

県立延岡病院整形外科

○池尻 洋史 谷脇 功一
木屋 博昭 弓削 孝雄
金井 一男 田口 学
川谷 洋右 福田 朋博

整形外科領域では生命的予後に影響する合併症として肺塞栓症は古くから知られているが発生頻度は低く、特に単独の皮下骨折で合併することは稀である。今回我々は下腿骨折後に生じた肺塞栓症の1例を経験したので報告する。

68歳女性。交通事故にて受傷。右下腿の疼痛と変形を認め当科搬送。単純X線にて右脛・腓骨骨幹部骨折を認めた。入院時明らかな胸部外傷は認めず、 SaO_2 も96~98%であった。受傷後4日目より喘息、血痰が出現、聴診にて湿性ラ音、動脈血液ガス分析 (O_2 5ℓ/分投与)にて PCO_2 43.6mmHg PO_2 77mmHgと低下を認めた。胸部X線では明らかな変化はなく、胸部痛、点状出血、中枢神経症状等は認めなかった。肺血流シンチグラム施行し、RI分布の不均一と左舌区の一部にActivityの低下を認めため、肺塞栓症を疑いヘパリン、ミラクリッド投与を開始し症状の改善が認められた。

3. 人工関節置換術後に仙骨のinsufficiency fractureを生じた慢性関節リウマチ患者の2症例

潤和会記念病院整形外科
同 リウマチ科

○江夏 剛
甲斐 睦章

慢性関節リウマチ（以下RA）の膝関節や股関節に対する人工関節置換術は患者の移動動作能力の改善に有効である。しかし、術前寝たきりや車椅子レベルのRA患者では廃用性の骨萎縮が強く、人工関節のゆるみの問題のみならず、脊椎の圧迫骨折などによる痛みで患者のADLが障害されることがある。今回、われわれは術前車椅子レベルの患者に対し人工関節を施行した後、仙骨にinsufficiency fractureを生じた2症例を経験したので報告する。

【症例1】60歳女性。classIII stageIV。RA罹病期間：16年。平成10年10月、両TKA施行後4ヶ月にて腰痛出現し、単純レ線、MRI上、第2仙骨のinsufficiency fractureを認めた。

【症例2】79歳男性。classIII stageIV。RA罹病期間：2年。平成10年12月右THA+骨移植術後3ヶ月にて腰痛出現した。単純レ線、MRI上、第2仙骨にinsufficiency fractureを認め、骨シンチ、CT撮影にて精査を行った。

4. 陳旧性のアキレス腱断裂に対するLeeds-Keio人工靭帯使用の経験

国立都城病院整形外科

○前田 和徳 税所幸一郎
長田 浩伸

【目的】陳旧性アキレス腱断裂に対し、Leeds-Keio人工靭帯を用いた再建術を施行したので、若干の文献的考察を加え報告する。

【症例】74歳、女性。平成10年1月30日側溝に落ち左アキレス腱断裂、近位にてアキレス腱縫合術施行。平成10年3月30日転倒し左アキレス腱再断裂し当科初診となる。当症例に対し、単純な端々吻合が困難なため、断裂したアキレス腱中枢部と末梢部をLeeds-Keio人工靭帯を用い8の字状にとうし、さらに足底筋腱を用いた遊離腱移植とアキレス腱有茎腱片移植を行い再建した。

【結果】術後可動域の軽度制限を残しているが、再断裂はなく、またつま先立ちもでき経過良好である。

5. 脳性麻痺者の歩容の検討 (症例報告) — 一種々の歩行分析装置による術前後の評価 —

宮崎県立こども療育センター

○海田 博志 山口 和正
柳園 賜一郎
渡邊 信二

宮崎医科大学整形外科

手術の効果の客観的評価として、歩行分析は最近ますます重要な位置を占めてきている。今回我々は、成人脳性麻痺患者の足部変形・歩行異常に対する手術の評価を、種々の歩行分析装置で行い検討したので報告する。対象は23歳男性。2歳時に脳性麻痺を指摘されるも放置する。普通学校卒業後、就職するが立ち仕事のため足底部痛が強くなり来院。尖足・凹足等に対し、アキレス腱延長・足底腱膜解離等を施行。足圧分布・床反力・三次元的歩行分析装置等により手術前後の変化を評価した。また、足圧シートを使用し、手術後の器具内での圧を観察した。

6. 超音波骨量測定における測定部位について (第2報)

平部整形外科医院
宮崎医科大学整形外科

○平部 久彬 田島 直也
帖佐 悦男

【目的】踵骨骨量の測定に際し、下敷きの有無による測定部位の違いが、測定値に与える影響と年齢との関連について検討することである。

【対象および方法】患者およびボランティアの中で足底長が21.5から24cmの男性40名、女性194名、計234名でそれぞれの年齢は、平均49.9歳、51.7歳であった。超音波骨量測定装置(ルナー社製アキルス)を使用し、骨量の測定値(stiffness、SOS、BUA)を求めた。原則として右足にて測定した。

【結果】女性では、加齢に伴い下敷きの有無による測定値の差が減少していく傾向が認められた。加齢に伴う下敷きの有無による測定値の差に関し男性は女性とパターンが異なると考えられた。

主 題：肩関節周辺外傷

座長 神 蘭 豊（宮崎市郡医師会病院）

7. Ace humeral nail system を用いて治療を行った上腕骨近位端骨折の小経験

宮崎社会保険病院整形外科

○矢野 浩明 田辺 龍樹
黒沢 治 有住 裕一

【はじめに】髄内釘固定法は横止め法の開発により、長管骨の骨幹部骨折のみならず関節周辺骨折に対しても用いられるようになってきた。今回、我々はAce humeral nail system を用いて治療を行った上腕骨近位端骨折3例について報告する。

【症例1】45歳女性（既往症）慢性腎不全。転倒にて左上腕骨外科頸・大結節骨折受傷。

【症例2】65歳男性（既往症）アルコール依存症。マッサージ（？）にて左上腕骨外科頸骨折受傷。

【症例3】59歳女性、転倒にて左上腕骨外科頸・大結節骨折受傷。

【結果】術後の JOA score は各々、91点（術後1年3ヶ月）、91点（術後1年1ヶ月）、100点（術後1年）であった。また術後腱板機能低下は認めなかった。

8. 上腕骨外科頸骨折に対するcannulated Herbert Bone Screw の使用経験

国立療養所霧島病院

○蔵重 芳文 西野 一郎
佐々木 伸一
飯田 博幸

飯田病院

【目的】上腕骨外科頸骨折の観血的な治療方法には種々の治療法がある。今回、当科においてcannulated Herbert Bone Screw (以下 CHBS) による骨接合術を経験したので報告する。

【対象、方法】症例は2例で全例女性。平均年齢は74.5歳（71～79歳）で骨折型はNeerの分類で全例3part骨折であった。手術はイメージ透視下に上肢に牽引を加え、回旋した骨頭にK-wireを刺入し、整復位が得られたところでガイドワイヤーを刺入し、続いてCHBSを挿入した。

【結果】高齢者の上腕骨外科頸骨折2例に対して徒手整復の後CHBSによる経皮的内固定を行った。簡便な方法であり、比較的満足する結果が得られたので報告した。

9. 肩鎖関節脱臼に対するCadenat 変法の治療経験

永吉 整形外科

○永吉 洋次 岩切 清文

【目的】肩鎖関節脱臼に対する治療法は数多く報告されているが、今一つ確立された治療法がない。今回、肩鎖関節脱臼 Tossy分類 GradeⅢに対しCadenat変法による治療成績を検討したので報告する。

【対象と方法】対象は1992年～1998年まで当院にてCadenat変法で治療した肩鎖関節脱臼(Tossy分類 GradeⅢ) 6例。全て男性。年齢は21歳～46歳(平均32.8歳)、受傷原因はスポーツ外傷4例、交通外傷2例であった。

【結果】治療結果は川部の評価法を用いて判定した。優4例、良2例と良好な治療成績を得た。

10. 反復性肩関節脱臼に対するBristow 変法の術後成績

宮崎医科大学整形外科

○谷 島 満 川越 正一
黒木 龍二 富里 恵美
帖佐 悦男 田島 直也
神 園 豊

宮崎市郡医師会病院整形外科

【目的】反復性肩関節脱臼に対する観血的治療については諸家により種々の方法が報告されているが、当科においては、1996年以降は、主にBristow 変法を行っている。今回は、術後成績について検討を行ったので報告する。

【対象および方法】Bristow 変法を施行した症例は9例(男性6例、女性3例)、手術時平均年齢は24.9歳、術後平均経過観察期間は9ヶ月(2.5～16ヶ月)であった。評価方法は、再脱臼の有無、職業・スポーツへの復帰状況、および日本整形外科学会肩関節機能評価法で行った。

【結果】再脱臼は女子空手選手の1例で空手試合中に1回認められた。の例も含め、全例スポーツ、職場への復帰を果たしていた。肩関節機能評価は平均92.1点であった。

閉 会